

競 技 注 意 事 項

1. 競技規則について

本大会は、2019 年日本陸上競技連盟競技規則ならびに、本大会申し合わせ事項によって行う。

2. 練習について

- (1) 練習は、指定された練習場所を使用する。補助競技場では、トラック競技・跳躍競技および投てき競技（砲丸投）の練習を主に行い、円盤投・ハンマー投・やり投については、運動広場 B で行うものとする。練習会場使用日程（別表）を参照すること。
- (2) 競技場内での練習は審判員の指示に従うこと。投てきの練習には特に安全に注意し、引率教諭が必ず同伴し、選手のための練習は認めない。
- (3) 棒高跳の練習については、大会当日 8：00 から主競技場内を使用することができる。
- (4) 雨天練習場使用について・・・シート等の使用により独占的な使用を絶対にしないこと
 - バックスタンド下練習場はスパイク・ハードル等の使用は禁止とする（アップシューズのみ可）第 3 ゲートから第 2 ゲートへの同一方向走行とする。（当日練習会場に掲示）
 - サイドスタンド下練習場はスパイク可（ハードル等の器具は不可）第 4 ゲートから第 3 ゲートへの同一方向走行とする。（当日練習会場に掲示）

3. 招集について

- (1) 競技者招集所は、第 3 ゲート外側（補助競技場への通路横）に設ける。
- (2) 招集時刻は競技時刻を基準とし、下記のとおりとする。

種 目	招集開始時刻	招集完了時刻
ト ラ ッ ク	2 5 分前	1 5 分前
フィールド（棒高跳を除く）	4 0 分前	3 0 分前
フ ィ ー ル ド（棒高跳）		6 0 分前（現地招集）

- (3) 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権したものとして処理する。
- (4) 招集の手順
 - ①競技者は招集開始時刻に、招集所競技者控所で待機し、点呼を受ける。その際、競技者係にナンバーカード・スパイク・衣類・持ち物等の確認を受ける。
 - ②競技者控所は当該種目の競技者以外の立ち入りを禁止する。
 - ③代理人による点呼は原則として認めない。ただし、2 種目を同時に兼ねて出場する競技者は、あらかじめ本人または代理人が招集所の競技者係に 2 種目同時出場届を提出する。
 - ④リレー競技に出場するチームは、その種目の招集完了時刻の 1 時間前までに競技者招集所に用意しているオーダー用紙にオーダーを記入し、1 枚提出すること。
 - ⑤棒高跳の点呼は競技場所で行う。点呼終了後は公式練習に入る。公式練習は 2 回に分けて実施する。
 - ⑥出場種目を棄権する場合は、招集開始時刻までに招集所の競技者係に棄権届を提出すること。

4. 競技について

- (1) 競技者は、当該種目以外グラウンド内に立ち入ることはできない。
- (2) 短距離種目では、競技者の安全確保のためフィニッシュライン通過後も自分のレーン（曲走路）を走ること。
- (3) トラック競技において、欠場者がでた場合はそのレーンを空けて行う。
- (4) トラック競技（セパレート種目）において、8 名（8 チーム）以内の場合は 2～9 レーン、9 名（9 チーム）の場合は 1～9 レーンで行う。
- (5) トラック競技の判定は、全て写真判定装置（全自動電気計時 1/100）で行う。
- (6) 4×100m リレーの第 2・第 3・第 4 走者は、主催者が用意するマーカー（1 カ所）を使用することができる。マーカーは監察係が現地で渡す。そのマーカー以外は使用してはならない。
- (7) 4×400m リレーの第 3・第 4 走者のバトンの受け渡しは、コーナートップ順に内側より並ぶこと。コーナートップとは、第 3 コーナー内側に示された黄色旗を通過した時点のことである。この後は、並んだ順序を変えてはならない。なお、次走者は、テークオーバーゾーンの内側より走り出さなければならない。

- (8) 跳躍・やり投の競技者は、助走路の外側に主催者が用意したマークを、2カ所置くことができる。マークはそれぞれの審判員が現地で渡す。それ以外は使用してはならない。
- (9) 携帯電話等の通信機器を競技場内に持ち込むことはできない。
- (10) 競技中に起きた競技者の行為または順位に関する抗議は、規則第 146 条に基づき、正式に結果が発表されてから 30 分以内に、次のラウンドが行なわれる種目では 15 分以内に、当該競技者自身または、顧問が口頭で審判長に申し出ること。

5. 競技用シューズについて

スパイクの長さは 9mm をこえてはならない。また、走高跳およびやり投の場合は 12mm をこえてはならない。これらのスパイクの直径は、先端が 4mm 以内でなければならない。また、スパイクの数は 11 本以内であれば何本でもよい。

6. ナンバーカードについて

ナンバーカードは指定された大きさ（縦 20cm×横 24cm）で、ユニフォームの胸部と背部に付けること。折り曲げたり、汚したりしないこと。ただし、跳躍競技に出場する競技者は、胸部または背部だけでもよい。トラック競技者は写真判定用の腰ナンバー標識を招集所で受け取り、パンツの右後方に付けること。また、4×400m リレーの第 2・第 3 走者については主催者の用意したナンバーカードを胸部に付けること。

7. 競技場の中に商品名のついた衣類・バッグ類を持ち込む場合について

陸上競技ルールブック 2019「競技会における広告および展示物に関する規定」の通りとする。

以下「抜粋」

(1) 上半身の衣類

a) ウインドブレーカー・Tシャツ・トレーナー類

製造会社名／ロゴ：右胸または左胸 1 箇所、

文字の高さ 4cm 以内、トータルのロゴの高さは 5cm 以内で、40cm²以内の長方形とする。

b) ランニングベスト・レオタード

製造会社名／ロゴ：前部 1 箇所、

文字の高さ 4cm 以内、トータルのロゴの高さは 5cm 以内で、30cm²以内の長方形とする。

(2) 下半身の衣類

製造会社名／ロゴ：1 箇所、文字の高さ 4cm 以内、面積 20cm²以内。

(3) ソックス

製造会社名／ロゴ：それぞれのソックスに 1 箇所、高さ 3cm 以内、面積 6cm²以内。

(4) その他の衣類（帽子・メガネ・サングラス・手袋・リストバンドなど）

製造会社名／ロゴ：衣類（製品）1 つにつき 1 箇所、面積 6cm²以内。メガネ、サングラスなどは 2 箇所まで。

(5) バッグ

製造会社名／ロゴ：2 箇所、それぞれの教示の大きさは面積 25cm²以内。

(6) 商標違反時の対応

着替えさせる（裏返しにさせる）・テープを貼って隠す。

8. 競技の抽選ならびに番組編成について

- (1) 予選におけるトラック競技のレーン順、ならびに跳躍・投てき競技の試技順は、プログラム記載の左側に示された番号順とする。
- (2) トラック競技の決勝については、主催者が公平に組み、レーン順を決定する。その結果を記録掲示板に掲示する。
- (3) リレーチームの編成メンバーは、その競技会のリレーまたは他の種目に申し込んでいる競技者であれば出場することができる。ただし、出場するメンバーのうち少なくとも 2 人はリレーに申し込んだ競技者でなければならない。また、リレー競技に出場するチームは、同一デザインのユニフォームで参加しなければならない。
- (4) トラック競技において、プラス進出者を決める場合、その最下位で同タイム者（同着）が出たとき（以下同タイム者という）は、下記の方法で決定する。

① 100m・200m・400m・800m・100mH・110mH・400mH・4×100mR・4×400m

Rの同タイム者については、次のラウンドへ進むことができる。レーンが不足する場合は、同タイム者または代理人によって抽選する。

- ②1500m・3000m・5000m・3000mSC・5000mWの同タイム者は、次のラウンドに進むことができる。

9. 競技用具について

- 競技に使用する用具は全て主催者が用意した物を使用しなければならない。ただし、棒高跳用ポールに限り個人所有の物を使用することができる。個人所有のポールの検査は点呼時に跳躍審判員が行う。
- 練習用として個人の用具は競技場に持ち込んではならない。

10. 走高跳・棒高跳におけるバーの上げ方

走高跳	男子	1m60(練習) 1m75(練習)	1m65	1m70	1m75	1m78	1m81	1m84	以降 3cm
	女子	1m35(練習)	1m40	1m45	1m48	1m51	1m54	1m57	以降 3cm
棒高跳	男子	3m20(練習) 4m40(練習)	3m30	3m50	3m70	3m90	4m00	4m10	以降 10cm
	女子	1m90(練習) 2m60(練習) 3m40(練習)	2m00	2m20	2m40	2m60	2m70	2m80	以降 10cm

- 走高跳・棒高跳の決勝で最後の一人になり優勝者が決まるまで、上記のバーの上げ方とする。
- 第1位が同成績の場合、順位決定のためのバーの上げ下げは、走高跳では2cm、棒高跳では5cm単位とする。

11. 競技場の入退場について

- トラック競技の競技者の入退場は、係員の指示に従うこと。
- フィールド競技の競技者は係員の指示に従って入退場する。但し、棒高跳の選手は各自で入場する。
- フィールド競技の入賞者は当該審判員が、トラック競技の入賞者は係員が表彰者控所に誘導する。

12. 表彰およびインタビューについて

- 各種目第3位までの入賞者はユニフォームで表彰を受けること。その際入賞者は決勝終了後入賞者控場所（正面玄関ロビー内）で待機し、係員の指示を受けること。
- 入賞者のインタビューは、入賞者控所で行う。

13. その他

- 大会期間中競技場で発生した傷害や疾病はメインスタンド下の医務室で応急処置を行うが、その後の責任は負わない。なお、参加者は健康保険証を持参すること。
- 更衣は主競技場の男子・女子更衣室を利用することができる。ただし、貴重品は各自で保管すること。
- 記録証の交付を希望する競技者は、陸上競技場本部の記録証交付係に記録証交付願及び交付料金500円を添えて申し込むこと。
- 記録は正面玄関1Fの記録掲示板に掲示する。
- 競技場内でテントを張れる場所は両サイド及びバックスタンド2階より上の場所に限る（芝スタンドは不可）。補助競技場では練習等に支障のない場所とする。横断幕・部旗・のぼり等については、メインスタンドを除く、両サイド及びバックスタンドの上部とし、通路を除く場所とする。ただし個人名入りの横断幕等は禁止する。
- 集団での連呼応援はメインスタンドでは禁止とし、フィールド種目の妨げにならないようにすること。
※フィールド競技が行われている場合、集団での応援行為（連呼応援や応援歌合唱など）は禁止する。
- その他、詳細については事前監督会議で説明する。
- 届け出用紙は以下の場所に用意してある。
 - ・2種目同時出場申請書・棄権届・リレーオーダー用紙・・・招集所競技者控え場所
 - ・記録証明書交付願・抗議申立書・・・本部（主競技場1F会議室）

＜練習会場日程＞

	10月12日(土)	10月13日(日)
主競技場	8:00～10:30 ●トラック競技 (1.2レーン) 周回練習 (3.4.5.6.7レーン) jog 以外 (8.9レーン) ハードル ●跳躍競技 (全般) 棒高跳は主競技場のみ	7:30～9:00 ●トラック競技 (1.2レーン) 周回練習 (3.4.5.6.7レーン) jog 以外 (8.9レーン) ハードル ●跳躍競技 (棒高跳以外)
雨天練習場	8:00～ ○サイドスタンド雨天練習場(第4ゲートから第3ゲート) ○バックスタンド雨天練習場(第3ゲートから第2ゲート) ○同一方向走行とする。(当日練習会場に掲示) ○ハードルは使用できない。	7:30～
補助競技場	7:30～ ●トラック競技 (1.2レーン) 周回練習のみ (3.4.5.6レーン) Jog 以外 (7.8レーン) ハードル練習 ●跳躍競技 ▲三段跳は指定時間のみ (男子のみ) 8:00～10:30 (女子のみ) 10:30～13:00 ▲走幅跳は三段跳指定時間以外 ▲走高跳 1ピットのみ ●投てき競技 ▲女子砲丸投 8:00～10:20 ▲男子砲丸投 10:20～12:20	7:30～ ●トラック競技 (1.2レーン) 周回練習のみ (3.4.5.6レーン) Jog 以外 (7.8レーン) ハードル練習 ●跳躍競技 ▲走幅跳 7:30～ ▲走高跳は指定時間のみ (女子のみ) 7:30～ 9:30 (男子のみ) 9:30～11:30
運動広場B	7:30～ ●投てき競技 ▲男子やり投 8:00～10:20 ▲女子やり投 10:20～12:20 ▲男子ハンマー投 12:20～13:20 ▲女子ハンマー投 13:20～14:50 ▲円 盤 投 14:50～17:00	7:30～ ●投てき競技 ▲男子ハンマー投 7:30～ 8:50 ▲女子円盤投 8:50～10:40 ▲男子円盤投 10:40～12:30

練習については競技役員の指示に従うこと。
 投擲練習については顧問が必ず同伴のこと。